

■ 売上概況

2022年6月度

概況

①ワコール（国内）の売上概況 2022年6月度

ワコールの売上高は、前年の緊急事態宣言の裏返しもあり、前年同月比109%となりました。一方、回復のペースが想定を下回り推移した結果、計画を下回りました。なお、第1四半期会計期間におけるワコールの売上高は前年同期比110%となりました。

・第1ブランドグループ（ワコールブランド中心）

ワコールブランド(インナーウェア)を担当する第1ブランドグループの売上高※(納品)は、緊急事態宣言下にあった前年に比べ、実店舗の売上高が回復した結果、前年同月比102%となりました。一方で自社ECの売上が低調に推移したことなどが響き、計画を下回りました。なお、第1ブランドグループの自社EC売上高は、前年同月比92%でした。

第1四半期会計期間における第1ブランドグループの売上高※(納品)は前年同期比109%となりました。また、第1四半期会計期間における自社ECの売上高は前年同期比104%となりました。
(※第1ブランドグループで展開するブランドの自社EC売上を含んだ数値)

・第2ブランドグループ（ウイングブランド、パーソナルウェア、ファミリーウェア、メンズインナーを担当）

ウイングブランドを担当する第2ブランドグループの売上高※(納品)は、前年の感染症影響の裏返しや、主力の「ときはなつブラ」など一部商品の売上が堅調に推移したことから、前年同月比111%となりました。しかし、その他の商品の売上が想定を下回り、計画には届きませんでした。なお、第2ブランドグループの自社EC売上高は、前年同月比99%でした。

第1四半期会計期間における、第2ブランドグループの売上高※(納品)は前年同期比101%となりました。また、第1四半期会計期間における自社ECの売上高は前年同期比104%となりました。
(※第2ブランドグループで展開するブランドの自社EC売上を含んだ数値)

・第3ブランドグループ（アンフィブランドを中心に担当）

アンフィブランドを担当する第3ブランドグループの売上高※(納品)は、前年の感染症影響の裏返しもあり、前年同月比109%となりましたが、新規顧客への販売に苦戦したことなどが響き、計画には及びませんでした。なお、第3ブランドグループの自社EC売上高は、納品遅延の影響もあり、前年同月比84%でした。

第1四半期会計期間における、第3ブランドグループの売上高※は117%となりました。また、第1四半期会計期間における自社ECの売上高は前年同期比81%となりました。
(※第3ブランドグループで展開するブランドの自社EC売上を含んだ数値)

各チャネルにおける店頭ベースの売上高は、百貨店98%、量販店のワコールブランド101%、ウイングブランド100%、専門店96%となりました。

直営店の主力ショップである「アンフィ」は、大型グループ納品による売上拡大を目指しましたが、来店客数が伸び悩み、前年同月を下回りました。ファクトリースタについては、サマーセールや新規入会キャンペーン等の販促施策が好調に推移し、前年同月を上回りました。

「アンフィ」ショップ：既存店 95%、新店込 95%

「ファクトリースタ」：既存店 110%、新店込 109%

<出退店情報>

アンフィラゾーナ川崎（6/23）

・自社EC

自社ECの売上高※は、訪問回数が前年を超えましたが、購買率が想定・前年ともに下回り、前年同月比92%となりました。第1四半期会計期間における自社ECの売上高は、98%となりました。
(第1～3ブランドグループで展開するブランドの自社EC売上を含んでいます)

②ピーチ・ジョン（国内）売上概況 2022年6月度

ピーチ・ジョンの国内事業の売上高は、自社・他社ECが訪問客数の増加に苦戦し、前年を下回ったものの、直営店の売上が堅調に推移した結果、前年同月比99%と、計画並みの着地となりました。

自社ECについては、販促施策が全体の売上を牽引しましたが、サマーセール売上が想定を下回り、前年同月比96%となりました。直営店については、来店客数の増加が寄与し、前年同月比106%となりました（計画超過）。他社ECについては、前年同月比88%となりましたが、計画並みの水準でした。

なお、第1四半期会計期間における、ピーチ・ジョンの売上高は103%となりました。

なお、海外事業（店舗の状況）は、以下の通りです。

上海PJ：64%

ロックダウン解除後も、来店客数が低調に推移した結果、前年同月比、計画比ともに下回りました。

PJ香港：114%

季節商品の「ストラップレスブラ」の販売が好調に推移したことなどから、前年同月比、計画比ともに上回りました。

台湾PJ：156%

感染症影響の緩和により、前年同月を大きく上回りましたが販促施策が不調におわり、計画は下回りました。

③海外主要会社の売上概況 2022年6月度

ワコールインターナショナル(米国ワコール、IO社の合計)の売上高は、前年同月比86%(14%の減少)となり、前年同月、計画ともに下回りました。また、第1四半期会計期間における、売上高は前年同期比94%となりました。

米国ワコールの売上高は、ECは堅調に推移しましたが、前年のコロナからの回復の反動や今後の消費マインドの低迷を懸念した得意先の仕入抑制などの影響で実店舗が前年同月を下回った結果、全体としては前年同月、計画を下回りました。

IO社(LIVELY)の売上高は、自社ECはマーケティング投資効率の悪化などを踏まえ、広告宣伝を絞ったことなどが響き苦戦が続きました。また、卸も得意先の集客苦戦や、それを踏まえた仕入抑制の影響で低調に推移した結果、全体としては前年同月、計画ともに下回りました。

ワコールヨーロッパの売上高は、前年同月比93%(7%の減少)となり、計画も下回りました。他方、第1四半期会計期間の売上高は前年同期比116%となり、計画も上回りました。

英国は専門店や百貨店の売上が好調に推移し、前年同月を上回りました。一方、欧州は水着の販売が好調に推移したものの、その他の商材の販売に苦戦し、前年同月を下回りました。また、北米も前年のコロナからの回復の反動などにより、前年同月を下回りました。

中国ワコールの売上高は、前年同月比84%(16%の減少)と低調に推移し、計画も下回りました。また、第1四半期会計期間の売上高は前年同期比63%となりました。

実店舗は、感染症拡大に伴う行動制限が緩和されたものの、感染防止のため商業施設への客足の戻りは鈍く低調に推移しました。また、ECはCRM活動などにより購入単価や購買率を引き上げることは出来ましたが、プロモーションの中止影響などにより訪問客数が減少した結果、苦戦が続きました。

<参考>ワコール（海外）主要法人 ※前年比は現地通貨ベース

米国

・チャンネル別(Wacoal+B.tempt'd+CW-X)

	6月 単月	累計	累計構成比
店舗 (Wacoal+B.tempt'd)	72%	94%	49%
店舗 (直営,アウトレット)	77%	90%	1%
百貨店EC	81%	98%	14%
専業EC	168%	99%	13%
自社EC	103%	98%	18%
輸出 (カナダ除)	167%	197%	5%

ヨーロッパ

・チャンネル別

	6月 単月	累計	累計構成比
百貨店	73%	150%	20%
専門店	94%	114%	50%
直営店	80%	90%	4%
自社EC	116%	153%	6%
他社EC	108%	95%	20%

中国

・チャンネル別

	6月 単月	累計	累計構成比
百貨店	89%	61%	44%
その他実店舗	91%	66%	29%
他社EC	81%	69%	24%
その他	65%	45%	3%

・ブランド別

	6月 単月	累計	累計構成比
ワコール	90%	96%	72%
B.tempt'd	82%	118%	10%
CW-X	77%	80%	1%
LIVELY	78%	77%	17%

・地域別

	6月 単月	累計	累計構成比
UK	100%	146%	37%
ヨーロッパ	87%	113%	24%
北米	86%	96%	30%
その他	113%	106%	9%

・ブランド別

	6月 単月	累計	累計構成比
ワコール	86%	64%	89%
サルート	81%	62%	10%
アンフィ	76%	70%	1%

■ 売上概況

2022年5月度

概況

①ワコール（国内）の売上概況 2022年5月度

ワコールの売上高は、前年の緊急事態宣言の裏返しもあり、前年同月比123%となりました。一方、感染症影響からの回復のペースが想定を下回った結果、計画は下回りました。

・第1ブランドグループ（ワコールブランド中心）

ワコールブランド(インナーウェア)を担当する第1ブランドグループの売上高※(納品)は、前年同月比131%となりました。実店舗の売上高の回復ペースは想定を下回りましたが、自社ECが堅調に推移した結果、計画並みの着地となりました。なお、第1ブランドグループの自社EC売上高は、前年同月比107%でした。

(※第1ブランドグループで展開するブランドの自社EC売上を含んだ数値)

・第2ブランドグループ（ウイングブランド、パーソナルウェア、ファミリーウェア、メンズインナーを担当）

ウイングブランドを担当する第2ブランドグループの売上高※(納品)は、前年の緊急事態宣言の裏返しもあり、前年同月比108%となりました。一方、量販店を中心とする実店舗の売上高の回復が想定より遅れたため、計画は下回りました。なお、第2ブランドグループの自社EC売上高は、前年同月比102%でした。

(※第2ブランドグループで展開するブランドの自社EC売上を含んだ数値)

・第3ブランドグループ（アンフィブランドを中心に担当）

アンフィブランドを担当する第3ブランドグループの売上高※(納品)は、ファクトリーストアへの来店客数の回復などから前年同月比130%となりました。一方、主力商品の欠品などによる自社ECの苦戦などが響き、計画は下回りました。なお、第3ブランドグループの自社EC売上高は、前年同月比76%でした。

(※第3ブランドグループで展開するブランドの自社EC売上を含んだ数値)

各チャネルにおける店頭ベースの売上高は、百貨店153%、量販店のワコールブランド115%、ウイングブランド114%、専門店110%となりました。

直営店の主力ショップである「アンフィ」は、主力商品の在庫不足の影響が残りましたが、前年の緊急事態宣言の裏返しにより、前年同月を上回りました。ファクトリーストアについては、広域移動が増えたことなどにより、好調に推移しました。

「アンフィ」ショップ：既存店 130%、新店込 129%

「ファクトリーストア」： 既存店 159%、新店込 158%

<出退店情報>

・自社EC

自社ECの売上高※は、前年同月比98%と前年並みに推移しました。

(第1～3ブランドグループで展開するブランドの自社EC売上を含んでいます)

②ピーチ・ジョン（国内）売上概況 2022年5月度

ピーチ・ジョンの国内事業の売上高は、直営店や他社ECでの好調な売上が牽引し、前年同月比104%となりました。

自社ECについては、販促施策を講じたものの、集客数や購買率が計画を下回った結果、前年同月比74%となりました。一方で、来店客数の増加から直営店が前年同月比147%となったほか（計画超過）、他社ECについても、主力商品が好調に推移した結果、前年同月比113%となりました。

なお、海外事業（店舗の状況）は、以下の通りです。

上海PJ：58%

感染症拡大に伴うロックダウンの影響を受け、前年同月比、計画比ともに下回りました。

PJ香港：79%

前月に政府による消費支援策があった反動により、前年同月比、計画比共に下回りました。

台湾PJ：115%

POPUP出店などの効果で前年同月を上回りましたが、感染者拡大の影響を受け計画は下回りました。

③海外主要会社の売上概況 2022年5月度

ワコールインターナショナル(米国ワコール、IO社の合計)の売上高は、前年同月比92%(8%の減少)となり、計画を下回りました。

米国ワコールの売上高は、前年の売上高が感染症対策の規制緩和や米国政府の給付金支給などで大きく回復していたことの反動もあり、前年同月を下回りました。また、売上高の計上月の期ずれ影響や、主要得意先の仕入れペースの鈍化などから計画も下回りました。IO社の売上高は、自社EC、卸ともに集客に苦戦した結果、前年同月、計画ともに下回りました。

ワコールヨーロッパの売上高は、主要地域である英国、欧州が好調に推移した結果、前年同月比132%(32%の増加)となり、計画も上回りました。英国は専門店や自社ECなどが好調に推移しました。また、欧州も専門店を中心に好調に推移し、それぞれ前年同月、計画を上回りました。一方、北米は前年同月を上回ったものの、水着の販売が想定を下回ったことなどが響き、計画は下回りました。

中国ワコールの売上高は、感染症の規制強化に伴う影響が継続した結果、前年同月比56%(44%の減少)となり、計画も大幅に下回りました。

<参考>ワコール（海外）主要法人 ※前年比は現地通貨ベース

米国

・チャンネル別(Wacoal+B.tempt'd+CW-X)

	5月 単月	累計	累計構成比
店舗 (Wacoal+B.tempt'd)	87%	106%	51%
店舗 (直営,アウトレット)	89%	98%	1%
百貨店EC	92%	110%	13%
専業EC	78%	79%	12%
自社EC	107%	96%	18%
輸出 (カナダ除)	258%	206%	5%

ヨーロッパ

・チャンネル別

	5月 単月	累計	累計構成比
百貨店	212%	221%	23%
専門店	128%	127%	48%
直営店	97%	96%	4%
自社EC	208%	176%	6%
他社EC	87%	90%	19%

中国

・チャンネル別

	5月 単月	累計	累計構成比
百貨店	50%	50%	47%
その他実店舗	52%	56%	31%
他社EC	86%	49%	19%
その他	43%	31%	3%

・ブランド別

	5月 単月	累計	累計構成比
ワコール	95%	100%	73%
B.tempt'd	88%	140%	11%
CW-X	134%	81%	1%
LIVELY	82%	77%	15%

・地域別

	5月 単月	累計	累計構成比
UK	165%	180%	37%
ヨーロッパ	138%	131%	23%
北米	106%	101%	31%
その他	100%	103%	9%

・ブランド別

	5月 単月	累計	累計構成比
ワコール	56%	51%	88%
ザルート	53%	53%	11%
アンフィ	104%	59%	1%

■ 売上概況

2022年4月度

概況

①ワコール（国内）の売上概況 2022年4月度

ワコールの売上高は、前年同月比98%となりました。店頭ベースの売上は、4月後半にかけて徐々に回復してきたものの、前半の回復のペースが想定よりも緩やかなものに留まったため、計画は下回りました。

・第1ブランドグループ（ワコールブランド中心）

ワコールブランド(インナーウェア)を担当する第1ブランドグループの売上高※(納品)は、自社ECの売上が好調に推移しましたが、4月前半の店頭ベースの売上が低迷した結果、前年同月比100%となり、計画を下回りました。なお、第1ブランドグループの自社EC売上高は、前年同月比117%でした。

(※第1ブランドグループで展開するブランドの自社EC売上を含んだ数値)

・第2ブランドグループ（ウイングブランド、パーソナルウェア、ファミリーウェア、メンズインナーを担当）

ウイングブランドを担当する第2ブランドグループの売上高※(納品)は、マッチミーブラの販促強化などにより自社ECの売上が前年同月比131%と好調に推移しましたが、主力チャネルである量販店の来店者数が低迷した結果、全体では前年同月比87%となり、計画を下回りました。

(※第2ブランドグループで展開するブランドの自社EC売上を含んだ数値)

・第3ブランドグループ（アンフィブランドを中心に担当）

アンフィブランドを担当する第3ブランドグループの売上高※(納品)は、感染者数の減少に伴い、ファクトリーストアなどへの来店客数が回復したことから前年同月比115%となりましたが、商品遅延の影響等もあり、計画には及びませんでした。なお、第3ブランドグループの自社EC売上高は、前年同月比84%でした。

(※第3ブランドグループで展開するブランドの自社EC売上を含んだ数値)

各チャネルにおける店頭ベースの売上高は、百貨店113%、量販店のワコールブランド109%、ウイングブランド105%、専門店98%となりました。

直営店の主力ショップである「アンフィ」は、主力商品の遅延の影響が残りました。ファクトリーストアについては、広域移動が増えたことや前年同月の緊急事態宣言による店舗休業の反動により、前年を上回りました。

「アンフィ」ショップ：既存店 106%、新店込 105%

「ファクトリーストア」： 既存店 133%、新店込 132%

<出退店情報>

・自社EC

自社ECの売上高※は、前年同月比107%と成長基調を維持しました。

(第1～3ブランドグループで展開するブランドの自社EC売上を含んでいます)

②ピーチ・ジョン（国内）売上概況 2022年4月度

ピーチ・ジョンの国内事業の売上高は、直営店や他社ECでの好調な売上が牽引し、前年同月比107%となりました。

自社ECについては、販促施策を講じたものの、購買率などが計画を下回って推移したため、前年同月比83%となりました。直営店については、来店客数の増加が寄与し、前年同月比124%となりました（計画超過）。他社ECについても、主力商品が好調に推移した結果、前年同月比138%となりました。

なお、海外事業（店舗の状況）は、以下の通りです。

上海PJ：4%

感染症拡大に伴うロックダウンの影響を受け、前年同月比、計画比ともに下回りました。

PJ香港：151%

感染者数の減少により販売活動が回復したことや、政府の消費支援策の効果などもあり、前年同月比、計画比共に上回りました。

台湾PJ：95%

自社ECが、販促施策の効果などで計画を上回り好調に推移したものの、感染症再拡大の影響で苦戦し、前年同月比、計画比ともに下回りました。

③海外主要会社の売上概況 2022年4月度

ワコールインターナショナル(米国ワコール、IO社の合計)の売上高は、前年同月比102%(2%の増加)となりましたが、IO社の苦戦が響き、計画は下回りました。

米国ワコールの売上高は、自社ECは競争環境の激化を受け、前年同月の水準を下回りましたが、実店舗が好調に推移したことに加え、2月に実施した商品の価格改定の効果などにより前年同月を上回りました。一方、IO社の売上高は、高い購買率を維持したものの、サイトへの訪問者数の低迷が続き、前年同月・計画ともに下回りました。

ワコールヨーロッパの売上高は、主要地域である英国、欧州、北米の売上が好調に推移した結果、前年同月比128%(28%の増加)となり、計画を上回りました。

英国では、専門店や自社ECの売上が好調に推移しました。欧州、北米においても、先月に引き続き専門店を中心に堅調に推移し、前年同月・計画ともに上回りました。

中国ワコールの売上高は、感染症の規制強化に伴う影響により、前年同月比44%(56%の減少)となり、計画も大幅に下回りました。

<参考>ワコール（海外）主要法人 ※前年比は現地通貨ベース

米国

・チャンネル別(Wacoal+B.tempt'd+CW-X)

	4月 単月	累計	累計構成比
店舗 (Wacoal+B.tempt'd)	128%	128%	52%
店舗 (直営,アウトレット)	107%	107%	1%
百貨店EC	129%	129%	13%
専業EC	79%	79%	14%
自社EC	88%	88%	16%
輸出 (カナダ除)	166%	166%	4%

ヨーロッパ

・チャンネル別

	4月 単月	累計	累計構成比
百貨店	231%	231%	22%
専門店	126%	126%	47%
直営店	82%	82%	4%
自社EC	168%	168%	5%
他社EC	92%	92%	22%

中国

・チャンネル別

	4月 単月	累計	累計構成比
百貨店	51%	51%	59%
その他実店舗	60%	60%	39%
他社EC	-	-	-
その他	16%	16%	2%

・ブランド別

	4月 単月	累計	累計構成比
ワコール	104%	104%	72%
B.tempt'd	208%	208%	13%
CW-X	52%	52%	0%
LIVELY	73%	73%	15%

・地域別

	4月 単月	累計	累計構成比
UK	202%	202%	35%
ヨーロッパ	124%	124%	22%
北米	97%	97%	34%
その他	107%	107%	9%

・ブランド別

	4月 単月	累計	累計構成比
ワコール	43%	43%	86%
ザルート	54%	54%	14%
アンフィ	-	-	-